

2026年7月10日造形活動（1. 2歳児）

【1滴から始まる水との出会い】～体験し、感じる時間～

1歳児は「なにこれ」と探索、2歳児は、「どうしてだろう?」と探求しながら素材や出来事と出会う活動です。

2歳児は、タレビンに水を入れるところからお手伝いをしました。
最初は、洗面器に水を入れたものに手を入れたり、かき混ぜたり、いつもの水遊びから始まりました。

1歳児は、すぐに触ろうとせずに、洗面器の中の水を観察していましたが、自ら手を入れて遊び始めました。

しばらくしてから、食紅の青を水の中に入れると、水の色が青に変わったことに驚く様子が見られ、保育士の顔を見て確認してから触り始めます。

プラダンボールに水を滴らせると、その現象に不思議に思いながら、出来た小さな水溜まりを繋げたり、指先で広げる姿がありました。

タレビン、霧吹き、ビニール袋の中に青く染まった水を入れると

タレビンにどうやって水が入られるのか、霧吹きからどうやったら水が出るのか、ビニール袋に入った水の感触を確かめる姿、全て大人が提案したり教えたわけではなく、子どもたち自らが様々な現象に出会い、まずはやってみる、思うように出来ない場合は、叩いてみたり、振ってみたり試してみる・・・

目の前の現象に出会っている時の子どもたちの眼差しは、真剣そのものです。
日頃の保育からも、子どもたちが今何に出会っていて、何を感じているのかを気付ける保育環境の大切さを改めて知る機会を持つことが出来ました。

保育ルームフェリーチェ大和園

